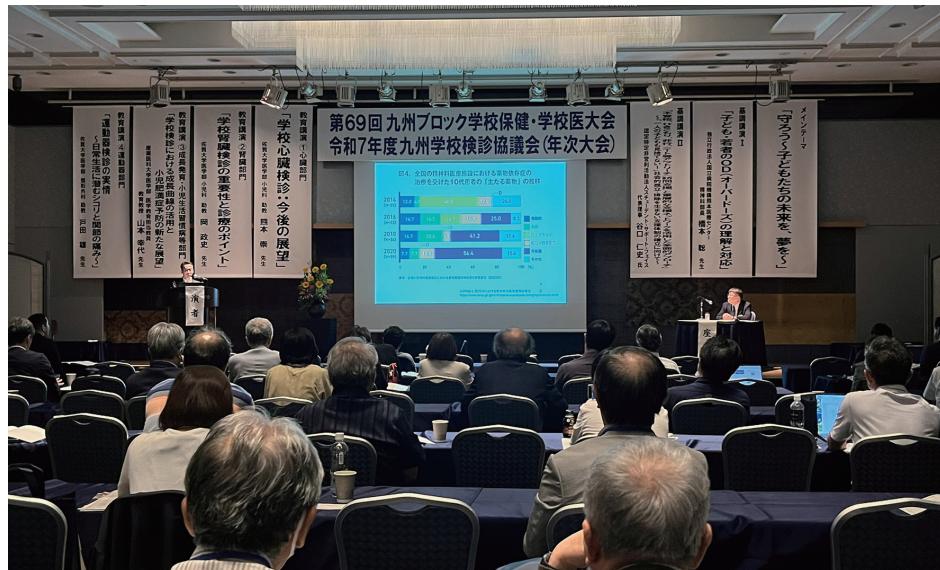


第69回九州ブロック学校保健・学校医大会 及び令和7年度九州学校検診協議会 (年次大会)

理事 當間 隆也



令和7年7月26日（土）～7月27日（日）の2日間、第69回九州ブロック学校保健・学校医大会及び令和7年度九州学校検診協議会（年次大会）が、佐賀県のホテルニューオータニ佐賀で開催された。概要と感想を紹介する。

1日目：以下、関係役員等による諸会議が行われた。

（1）九州学校検診協議会第1回専門委員会及び役員会

4つの専門委員会で以下の報告と協議が行われた。

1) 心臓部門

①九州各県における学校管理下の心臓突然死調査について

令和6年度の日本スポーツ振興センターによる九州管内報告は0件であった。

②児童生徒（小学生6歳～19歳）の心肺蘇生事例調査について

令和2年度まで行われていた「統一病名調査」を今回、新たな様式で再開した。

③（統一）心臓検診結果集計について

研究実施計画書（案）を宮崎県の倫理審査委員会に申請する。

2) 腎臓部門

①九州学校腎臓病検診マニュアル第5版について

発表後の九州各県の取り組みなどについて協議が行われた。沖縄県では、具体的な普及活動はまだ何も進んでいない現状が報告された。

②腎臓検診の集計結果について

小学部、中学部とともに、3次検診の受診率が低いことが継続的な問題である。また、集計データに各県で数字が合わない箇所があつ

たため、正しい数字を出していただくよう協力依頼があった。

③三次検診【精密検診】結果の報告様式の記載項目調査について

役員会で協議の結果特に意義なく承認され、協議会へ提案することになった。

3) 成長発育・小児生活習慣病等部門

①成長曲線・肥満度曲線の関係様式の補足について

成長曲線肥満度曲線の関係様式の補足について説明が行われ、協議の結果承認された。

②尿糖陽性者群の集計結果について

令和6年度の尿糖陽性者群の集計結果について報告後、意見交換が行われた。各県の状況が一目でわかる貴重な情報である。

4) 運動器部門

①小児肥満とやせにおける運動器への影響について

直接的な関係性はないと考えられるが、運動しない、しすぎの二極化が問題との意見が主であった。沖縄県からは、大腿骨頭すべり症、X脚、扁平足、反張膝、全身の関節弛緩など、肥満あるいはやせと関連する疾患への影響を考えていきたいと回答した。

②検診結果調査について

要受診者の受診率が向上しないことが課題である。沖縄県からは、一部の学校で理学療法士と一緒に運動検診を行っており、その費用が一部の自治体で予算化されたとの報告を行った。

(2) 九州各県医師会学校保健担当理事者会

佐賀県医師会から下記議題の提案があり、協議が行われた。

(1) 学校産業医の在り方について

提案要旨：

近年、教職員の長時間労働やメンタルヘルス不調が深刻化しているが、県や市の教育委員会では労働に関する視点が十分に共有されていな

いと感じる。現状のままでは、学校現場の「ブラック化」は是正されない。学校医が産業医的役割を果たす必要があるが制度上の課題がある。近年の労働省の方針では、49名以下の職場にも産業医の関与が求められており、産業医的関わりについて、各県でどのように考えているか伺いたい。

沖縄県では、医師会として独自の事業は実施していないが、教育庁が安全衛生に関する研修や情報提供を積極的に行っていると回答した。

福岡県から、

- ・学校産業医と学校医、そして労働安全衛生法の産業医は全く別物であり、その整理が必要である。
- ・福岡県では、この点を明確にしており、50名以上の公立学校には認定産業医を全員配置している。
- ・業務は学校産業医業務に準じ、県の人事委員会が監督下で、メディカルチェックやストレスケアは人事委員会が行う業務であり、学校産業医の業務ではないと整理している。
- ・学校医と産業医の報酬も別々に支給されている。
- ・民間施設の学校における産業医は、労働安全衛生法上の産業医であり、一般企業と同じ報酬である。
- ・平成8年に法律が変わり、学校では経過措置として学校医が産業医を兼務することを認めた経緯があり、それが今も続いている、等の報告があった。

日本医師会 松本会長からは、この問題は10年以上前から議論されている。文部科学省の予算が非常に少ないため、各県の教育委員会が持っている予算も非常に少ないので現状であり、文科省からの予算が措置されない限り、この問題はなかなか進みにくいと思われる、とのご意見があった。

2日目：第69回九州ブロック学校保健・学校医大会並びに令和7年度九州学校検診協議会

「守ろう～子どもたちの未来を、夢を～」をメインテーマに開催された。

午前は以下の4部門の教育講演があった。

(1) 心臓部門演題：「学校心臓検診：今後の展望」

要旨：学校心臓検診は日本の子供たちの健康を守る上で重要な役割を果たしているが、情報の一元管理、地域間の連携、医療従事者の負担軽減、そしてデジタル技術の活用において多くの課題を抱えている。全国的なデジタル化と情報共有の推進、そしてAIの導入により、より効率的で質の高い検診体制を構築する必要がある。

(2) 腎臓部門演題：「学校腎臓検診の重要性と診療のポイント」

要旨：学校検尿は当初の目的であった慢性腎臓病の予後改善に対し、十分な成果を上げてきた。今後は、先天性腎尿路異常の早期発見とそれに続く適切な管理が重要な課題となる。3次精密検診の受検率向上が喫緊の課題であり、尿蛋白クレアチニン比、超音波検査、尿中 β 2-マイクログロブリン、および身長を用いた血液検査を積極的に活用することで、より精度の高い診療が可能となる。

(3) 成長発達・小児生活習慣病等部門演題：「学校検診における成長曲線の活用と小児肥満・生活習慣病予防の新たな展望」

成長曲線・肥満度曲線を用いた評価の運用が進んでいない現状がある。受診勧奨と精密検査・個別指導の実際と効果についての報告があった。

(4) 運動器部門演題：「運動器検診の実情～日常生活に潜むシコリと関節の痛み～」

要旨：現在の運動器検診は、主として姿勢異常や運動機能障害の早期発見を目的としている。一方、小児や思春期に発症する骨軟骨部腫瘍はしこりや痛みを初発症状とすることが多く、成長痛やスポーツ外傷と誤認され見逃されることも少なくない。骨軟部腫瘍の早期発見は重要である。

午後は、2つの基調講演があった。

講演Ⅰ：「子ども・若者のOD(オードーバース)の理解と対応」

講師：独立行政法人国立病院機構熊本医療センター 精神科部長 橋本 聰

従来の薬物乱用とは異なり、精神的な「生きづらさ」やストレス、孤独感を抱える中で、身近な市販薬を自己治療や現実逃避の手段として安易に用いてしまうという背景がある。子ども・若者特有の心理的・社会的要因、寄り添った効果的なコミュニケーションと介入の重要性、適切な支援へ繋ぐための具体的な対応策のお話があった。

講演Ⅱ：「不登校、ひきこもり、非行、ニート等アウトリーチ（訪問支援）と重層的な支援ネットワークを活用した多面的なアプローチ」～「一人の子どもも見捨てない！」社会的孤立・排除を生まない支援体制の確立に向けて～

講師：認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス 代表理事 谷口 仁史

「ひきこもり」支援に関して、働きかけの際には「事前準備」に基づいた合理的配慮が最も重要で、支援者には「関係性」を調整する力が求められるとの、とても熱い講演であった。講師は、様々なメディアで取り上げられておりネットで検索すると多くがヒットするので、ご興味のある先生方はご参考にして頂きたい。

以上、学校保健の盛りだくさんの課題を改めて認識させられた。県医師会だけでは解決できない。教育委員会を始め教育現場との情報共有、協力、協働が不可欠であるとの思いを強くした。今後医師会においてどう活動するか、大変勉強になる有意義な2日間であった。



第 69 回九州ブロック学校保健・学校医大会
令和 7 年度九州学校検診協議会（年次大会）

- 開催要項 -

期 日：令和 7 年 7 月 26 日（土）15:00～20:30
 27 日（日）09:00～15:30（受付 08:30～）
 会 場：ホテルニューオータニ佐賀 佐賀市与賀町 1 番 2 号 TEL 0952-23-1111
 メインテーマ：守ろう～子どもたちの未来を、夢を～
 担 当：佐賀県医師会 佐賀市水ヶ江一丁目 12 番 10 号
 TEL 0952-37-1434 FAX 0952-37-1434 E-mail sma@saga.med.or.jp
 参加者：九州各県医師会員及び学校保健関係者
 会 費：①参加費－無料 ②懇親会費－10,000 円 ③昼食費－3,000 円
 認 定：日医生涯教育認定講座（4 単位）、日本臨床内科医会認定医・専門医研修単位（10 単位）
 日本小児科学会新更新単位 iii 小児科領域講習（2 単位）、日本小児科医会「子どもの心」相談医研修（2 単位）
 日本小児科医会「地域総合小児医療認定医」（新規：10 単位、更新：5 単位）
 （各分科会）眼科・耳鼻咽喉科・の専門医制度

《7 月 26 日（土）関係役員等による諸会議》

15:00	令和 7 年度九州学校検診協議会第 1 回専門委員会（部門別協議：福岡県メディカルセンター担当）	【各会場】
16:00	九州医師会連合会第 422 回常任委員会（九州医師会連合会主催・福岡県医師会担当）	【2F 有明の間】
17:00	令和 7 年度九州学校検診協議会役員会（福岡県メディカルセンター担当）	【M2F 鶴西の間】
18:00	九州各県医師会学校保健担当理事者会（日医学校保健担当理事との懇談会）	【M2F 凤凰の間】
19:00	九州ブロック学校保健・学校医大会懇親会	【M2F 鶴の間】
20:30		

《7 月 27 日（日）第 69 回九州ブロック学校保健・学校医大会並びに令和 7 年度九州学校検診協議会（年次大会）》

08:30	受付	
09:00	令和 7 年度九州学校検診協議会（年次大会） 【M2F 鶴東の間】 ◇教育講演 ①心臓部門 演題：「学校心臓検診：今後の展望」 講師：佐賀大学医学部 小児科助教 熊本 崇 ②腎臓部門 演題：「学校腎臓検診の重要性と診療のポイント」 講師：佐賀大学医学部 小児科助教 岡 政史 ③成長発育・小児生活習慣病等部門 演題：「学校検診における成長曲線の活用と 小児肥満症予防の新たな展望」 講師：産業医科大学医学部 医学教育担当教員 教育教授 山本 幸代 ④運動器部門 演題：「運動器検診の実情 ～日常生活に潜むシコリと関節の痛み～」 講師：佐賀大学医学部 整形外科助教 戸田 雄	第 69 回九州ブロック学校保健・学校医大会分科会 09:30～11:30 【2F キャッスルテラス】 ◇眼科部門 講演 I：「ICT 時代における眼学校健診の現状と課題 ～屈折異常の早期発見と視力保護に向けた包括的 アプローチ～」 講 師：さが駅前眼科 院長 牛山 佳子 講演 II：「未熟児網膜症と小児の斜視弱視診療」 講 師：独立行政法人国立病院機構佐賀病院 眼科医師 河田 康祐 ◇耳鼻咽喉科部門 講演 I：「小児難聴の精査・診断 ～画像データの検討をふまえて～」 講 師：佐賀大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 助教 嶋崎 絵里子 講演 II：「小児気管切開の周術期管理と在宅での対応」 講 師：佐賀大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 杉山 康一郎
12:00	参加者昼食・休憩 【M2F 凤凰の間】	九州医師会連合会学校医会評議員会 【M2F 鶴西の間】
13:00	九州医師会連合会学校医会総会	【M2F 鶴東の間】
13:30	第 69 回九州ブロック学校保健・学校医大会 ◇基調講演 講演 I：「子ども・若者の OD（オーバードーズ）の理解と対応」 講 師：独立行政法人国立病院機構熊本医療センター 精神科部長 橋本 聰 講演 II：「不登校、ひきこもり、非行、ニート等アウトリーチ（訪問支援）と重層的な支援ネットワークを活用した多面的 アプローチ ～「一人の子どもも見捨てない！」社会的孤立・排除を生まない支援体制の確立に向けて～」 講 師：認定特定非営利活動法人スクーデント・サポート・フェイス 代表理事 谷口 仁史	【M2F 鶴東の間】
15:30		